

## 航空機の騒音により心臓血管病のリスクが高まる

航空機の騒音による影響を調べた過去の研究では、高血圧リスクとの関連が報告されているが、心臓血管病との関連はほとんど検討されておらず、その結果にも一貫性がなかった。そこで、本研究では世界最大級の空港の一つであるヒースロー空港の周辺（ロンドン 12 区と西ロンドンの 9 地区）住民 360 万人を対象に、航空機の騒音と脳卒中、冠動脈性心疾患、心臓血管病リスクとの関連について調査した。

その結果、入院リスクは昼間と夜間の騒音レベルが高くなるのに比例して上昇した。また、年齢、性別、人種、貧困、喫煙など結果に影響を及ぼす因子で調整した結果、昼間の騒音レベルが最大（63dB 超）の地域では、最小（51dB 以下）の地域と比べて脳卒中、冠動脈性心疾患、心臓血管病による入院と死亡のリスクが高かった（相対危険度はそれぞれ 1.24、1.21、1.14）。昼間と夜間の騒音の影響を正確に区別することはできず、睡眠を妨害する夜間の騒音が疾患との関連の根底にある機序となっているのか、さらなる研究を要する。

したがって、航空機の高いレベルの騒音は脳卒中、冠動脈疾患、心臓血管病による入院や死亡のリスクを高めることと関連することが示された。

出典：British Medical Journal. 2013; 347: f5432